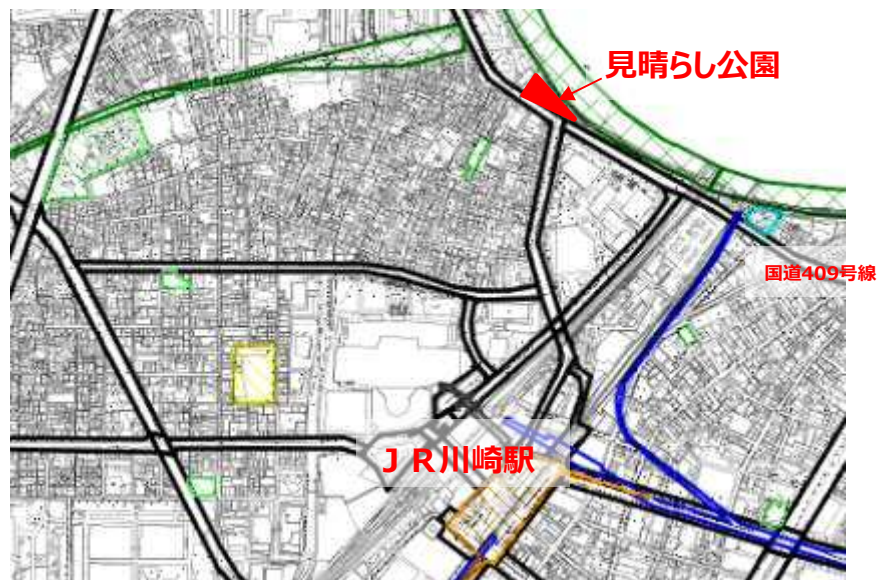


見晴らし公園の概要

● 位置図

住所：幸区幸町2-567-1他

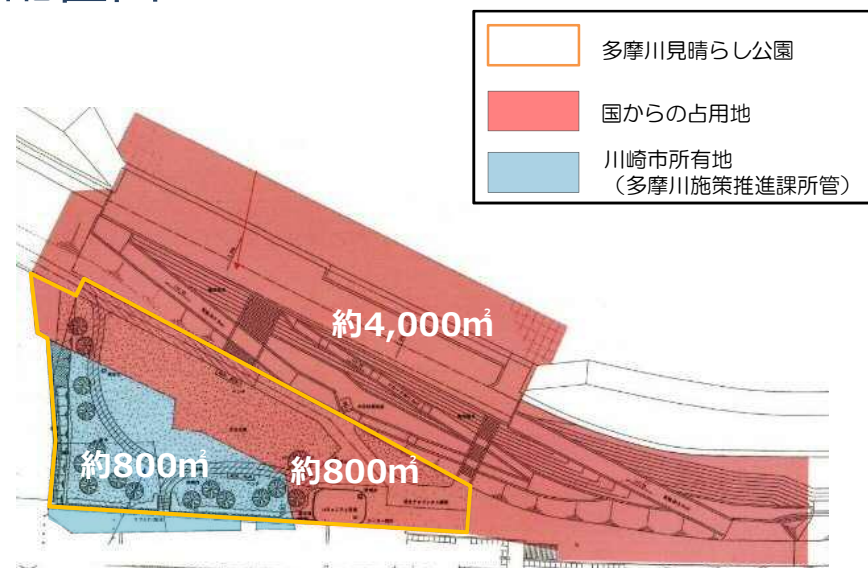


● 現況写真



※公園内にはベンチ、夜間灯、時計、芝生等あり。

● 配置図



● 用途地域等

川崎市所有地（上記水色部分）

- ・市街化区域
- 準住居地域（容積率300/建蔽率60）
- 防火地域
- 戸手4丁目地区地区計画

国からの占有地（上記赤色部分）

- ・市街化調整区域

見晴らし公園と隣接船着き場の現況

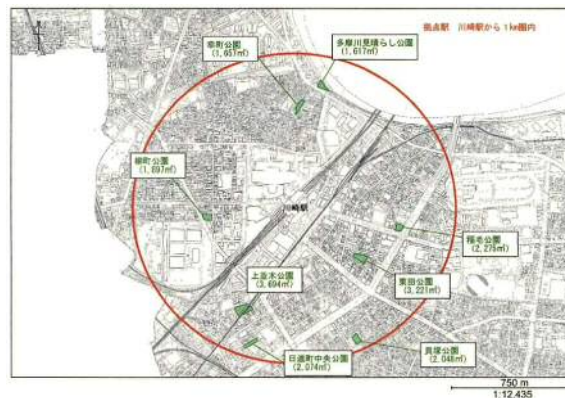


見晴らし公園と隣接船着き場の現況



見晴らし公園の立地特性等

- ① 拠点駅である川崎駅からの近接性
 - ・ 拠点駅である川崎駅から徒歩9分にある。
 - ・ 多摩川から羽田空港へのアクセス可能性あり。
- イ 多摩川に面し、船着場が隣接している
 - ・ 多摩川を活用したアクティビティや、舟運活用の可能性等、他の公園ではできない活用も含め、より幅広く活用手法の検討が可能。
- ウ 夜景を堪能できる絶好のロケーション
 - ・ 多摩川を挟んで対岸の夜景がきれいに見え、さらに駅から徒歩圏内で夜景が楽しめる貴重な場所である。



→見晴らし公園のポテンシャルを生かす活用を進めたい。

活用の方向性

● 求める視点

- 新たな来街者の呼び込みにつながるもの（他都市や羽田空港利用者）
- 多摩川と隣接した立地等、この場所の個性を活かせるもの
- 日常的に人々が憩える空間づくり
- 恒常的な施設設置、定期的なイベント活用等、幅広く検討

《活用アイデア例》

ロケーションを活かしたカフェ、サイクルステーション、シェアキッチン、釣りが楽しめるアトラクション、SUPヨガ教室、地域資源等を活用したイベント・・・

● 検討の進め方（イメージ）

- R3 秋 社会実験（約1か月）
 - ・ 平日も含め、新たな活用方法について検討等するため実施
 - ・ 課題等を整理し、今後、検討を進める
- R4以降 新たな活用に向けた取組推進

民間事業者様の御意見を求めたい事項

- ①土地貸付等による民間施設設置の可能性及び条件等の確認
- ②見晴らし公園、隣接船着き場を活用した短期又は中長期的イベント実施についての提案及び実現にあたっての諸条件の確認
- ③船着き場の観光活用や船着き場を活用した移動手段整備についての可能性及び条件等の確認
- ④「多摩川からの玄関口」としてのにぎわい拠点を実現するため必要な整備等についての確認

参考 1) LOW MITSU PARK FES



身近な公園・水辺という公共空間の利活用あり方を模索する機会として、
コロナ禍を受けてのイベント型社会実験を開催

《実施概要》

実施時期：2020年10月23日（金）、24日（土）

来場者数：約1500名

コンテンツ：キッチンカー等による飲食・音楽ライブ・サップヨガほか

《アンケート結果概要》

- 今回のイベントについて、100%の人が非常に良かった、若しくは良かったと回答しており、好意的に受け止められた
- 自由意見では『景色も良くリフレッシュできる場所が、更により良い空間に感じられました。今後も是非今回のようなイベントや憩いの場として有効活用して欲しい』など公園の利活用を望む声が寄せられた

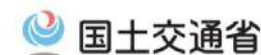


参考 1) LOW MITSU PARK FES



『ニューノーマルに対応した新しいまちづくりに関する調査結果』：国土交通省HP

事例紹介：川崎市（公園・水辺の利活用のためのイベント型社会実験の実施）



公共空間の利活用

取組概要

- 川崎市では、市が管理する公園において、身近な公園・水辺という公共空間の利活用あり方を模索する機会として、コロナ禍を受けてのイベント型社会実験「LOW MITSU PARK FES」を開催
- 実施したアンケートでは、普段とは違う使い方も好意的に受け止められ、今後の活用の可能性が確認された一方で、日常的な利活用としては地域資源が十分に活かされていない現状を確認

■ LOW MITSU PARK FES 概要

項目	内容
実施概要	『COVID-19時代のイベントのあり方などを考える』や『身近な公園・水辺という緑とオープンスペースにおける柔軟かつ多様な利活用を促進する場のあり方、使い方を昼夜あわせて模索する機会にする』などをテーマに、社会情勢の変化を見据えながら、今後の継続的な活用に向けたイベントとして開催
実施時期	令和2年10月23日（金）、24日（土）
実施場所	多摩川見晴らし公園（川崎市幸区幸町2丁目）及び隣接船着き場
実施主体	株式会社MADARA（公募型プロポーザル方式にて選定）
総来場者数（推計）	約1,500名（アンケート回収数：153件）



出所：川崎市提供資料



■ 事業のポイント

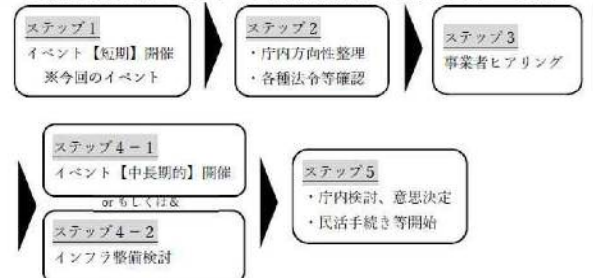
- ① 市管理の公園を活用し、公募型プロポーザルによりイベント型社会実験を開催
- ② 来場者へのアンケートにより、公園等の地域資源の有効活用のニーズ・課題を把握

Point

■ LOW MITSU PARK FES アンケート結果概要

- ・ 今回のイベントについて、100%の人が非常に良かった、若しくは良かったと回答しており、好意的に受け止められた
- ・ 当該公園については、普段月数回かほぼ利用しない人が約7割を占める結果となっており、公園・地域資源が十分に活用されていない現状
- ・ 自由意見では『景色も良くリフレッシュできる場所が、更により良い空間に感じられました。今後是非今回のようなイベントや憩いの場として有効活用して欲しい』など、公園の利活用を望む声が多数寄せられた

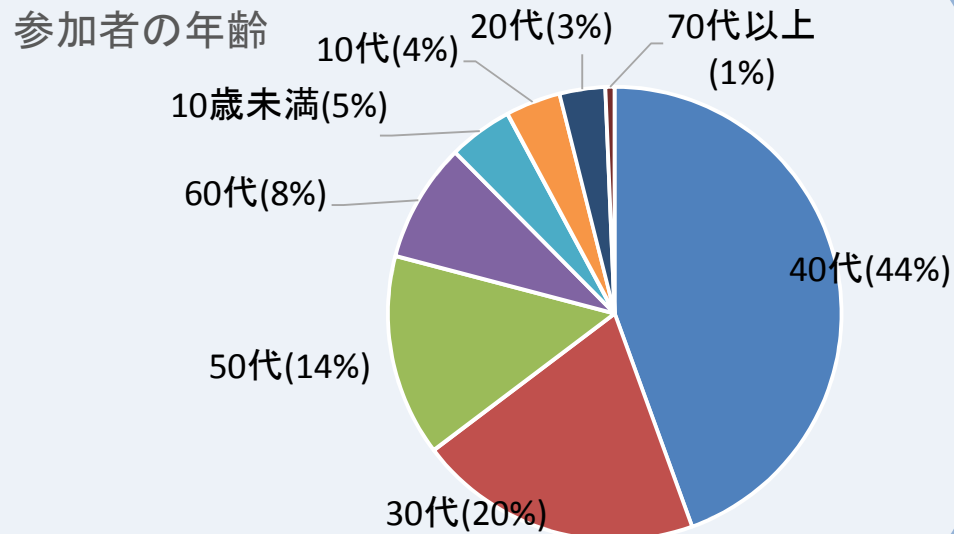
■ 実施事業者による今後の活用に向けたステップ（案）



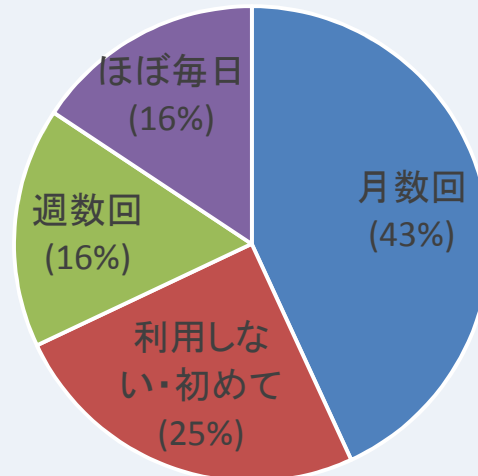
参考 1) LOW MITSU PARK FES



アンケート結果（回答数153件）

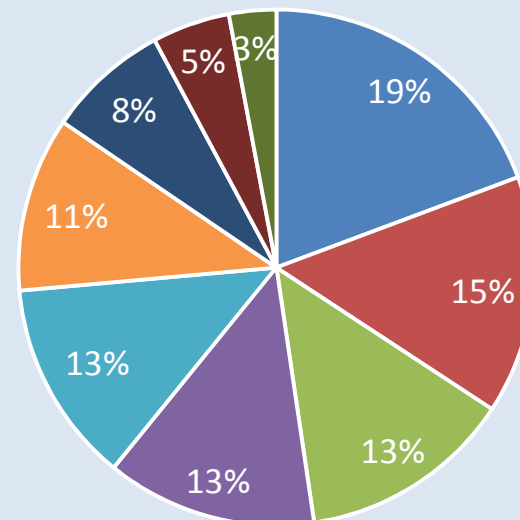


公園の使用頻度



今後、この公園にあったら良いと思う機能や設備等

- カフェ等の飲食店(19%)
- 音楽・ダンス等のイベント(15%)
- 水辺を生かしたアクティビティ(13%)
- 船の乗り場(遊覧船、東京・横浜を結ぶ定期船等)(13%)
- 夜のイルミネーション(13%)
- 常設のテーブルやベンチ(11%)
- 交流できる場(親同士、多世代、来街者等)(8%)
- 釣りができるスペース(5%)
- その他(3%)



その他意見

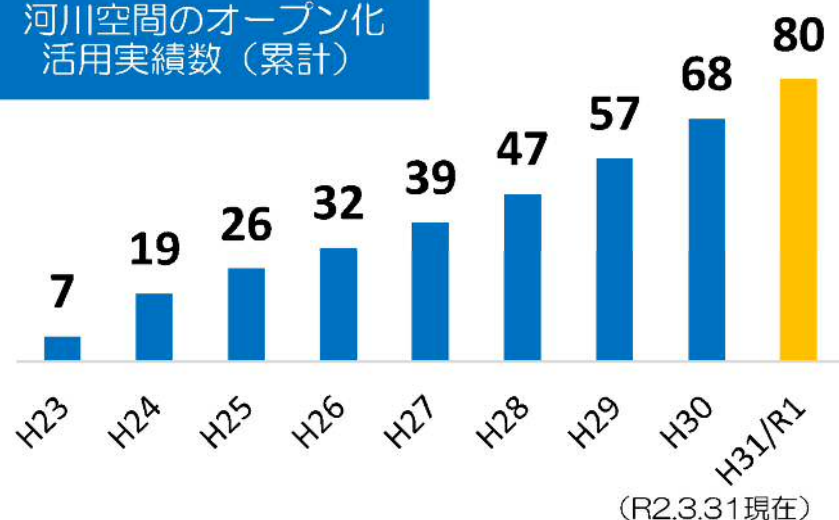
- ・バスケットコート
- ・コンビニ
- ・イベント
- ・キッチンカーの夜店
- ・トイレ
- ・花火

参考 2) 河川空間のオープン化

・河川敷地の占用主体は原則として公共性・公益性を有するものですが、「河川をにぎわいのある水辺空間として積極的に活用したい！」という要望の高まりを受けて、平成 23 年度にルールを改正し、一定の要件を満たす場合、営業活動を行う事業者等の方も、河川敷地の利用が可能に。

河川空間のオープン化

河川空間のオープン化
活用実績数（累計）



占用許可が可能な施設（例）

- 広場、イベント施設、遊歩道、船着場
- 前述の施設と一体をなす飲食店、売店、オープンカフェ、広告板、広告柱、照明・音響施設、キャンプ場、バーベキュー場等

国土交通省HPより